

《現代版聖書を編集するリベラル派の人々》【聖書の歴史 E-2】

● 現代版聖書を編集するリベラル派の人々

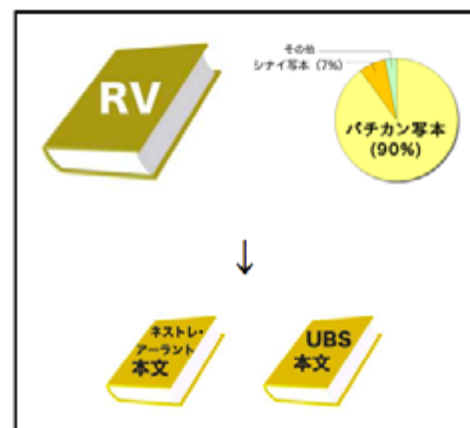
二十世紀に入ると、カート・アーラント、ブルース・メッツガー、カトリック枢機卿カルロ・マルティニほかの人々が、**ウェストコットとホートの業績**を土台として、『**ネストレ-アーラント版**』、『**UBS 版**』と呼ばれる聖書本文を作りました。メッツガーはこう述べています。

「**UBS** ギリシャ語新約聖書を作成した国際委員会は、**ウェストコットとホートの本文 (RV)** をその**土台の本文**として採用しただけでなく、彼らの方法論にも従った…」
(James Brooks, Bible Interpreters of the 20th century, p. 264)

今日、この**ネストレ-アーラント版/UBS 版**本文が、福音派神学校における研究のための、また、数々の聖書協会による翻訳のためのギリシャ語新約聖書本文となっています。

今日発行されている福音派の主要な翻訳聖書は、キング・ジェームズ版聖書などを除けば、すべて**ネストレ-アーラント版/UBS 版**本文に基づいています。**ネストレ-アーラント版/UBS 版**本文を使うようにと教えられている多くの人々は、多くの教理において健全な福音派の立派な牧師たちや学者たちです。

それにもかかわらず、**ネストレ-アーラント版/UBS 版**本文の立案者たちや管理者たちは、神学的には**リベラル派**であり、伝統的なプロテスタントの正典を信じてなく、その無誤性も無謬性も信じていない人々でした。



★現代版聖書に関わる人々



- カート・アーラント …聖書の各書の正典性を疑った**リベラル派**
- ブルース・メッツガー …**リベラル派**。不可知論者エールマンとの共著者
- カルロ・マルティニ …**カトリック**の枢機卿。イエズス会の会士



- カート・アーラントは、聖書の各書の正典性を疑った**リベラル派**の人です。

(→ "The Doctrinal Views of Dr Kurt Aland")

- ブルース・メッツガーも、多くの点で**リベラル派**の見解をとりました。

このことは、エキュメニカルで神学的に**リベラル**な聖書『New Revised Standard Version』の編纂に彼が直接的に関わったことから明らかです。

- カルロ・マルティニ (カトリックの枢機卿) は、プロテスタントの宗教改革に対抗して設立された、ローマ・カトリックのイエズス会の会士です。

二十世紀のイエズス会士は、エラスムスなどのような十六世紀のカトリックの改革者とは区別されるべきです。エラスムスは、まだプロテスタントの成り行きが不確実な時期に、カトリック教会を内部から改革しようとした人でした。

私たち福音派の牧師たちは、**ネストレ-アーラント**本文の編集者たちにあえて日曜学校の教材の編集をさせようとはしなかったのに、これらの人々に自分たちの新約聖書の編集を一任しているのです。

● メッツガーと不可知論者エールマン…本文批評学入門書の共著者

多くの福音派の神学校では、**メッツガー**著の『新約聖書の本文…その伝達と改ざんと回復』を、本文批評学の入門書として使うことが指定され、あるいは推薦されています。

おそらく、多くの神学校は、2005年に発行されたその本の第四版が**メッツガー**と**エールマン**の共著となっていることに気付いていないはずで

(→ "The Text of the New Testament: Its Transmission, Corruption, and Restoration (4th Edition)")

エールマン (Bart D. Ehrman) の名前を聞いて、多くの福音派の学者たちの間に警戒音が鳴り響くはずで

なぜなら、彼は、次の数々の本を著した**不可知論者** (神の存在は知り得ないとする人々) だからです。

★ブルース・メッツガーとの共著者・不可知論者エールマン (Bart D. Ehrman) の著書

- 『偽造: 神の名による著作。聖書の著作者たちが我々の考えているような人々ではない理由』 (2011年発行) ("Forged: Writing in the Name of God -Why the Bible's Authors Are Not Who We Think They Are")
- 『イエスをまちがって引き合いに出すこと…聖書を変えた者の背後の話と原因』 (2007年発行) ("Misquoting Jesus: The Story Behind Who Changed the Bible and Why")
- 『イエスはどのようにして神になったのか…ガリラヤ出身のユダヤ人説教者の昇進』 (2014年三月発行) ("How Jesus Became God: The Exaltation of a Jewish Preacher from Galilee by Bart D. Ehrman")
- 『魔法使いイエス』 (2014年八月発行。共著) ("Jesus the Magician" by Morton Smith and Bart D. Ehrman)

《聖書協会 TBS と UBS》【聖書の歴史 E-3】

このネストレ-アールント版 / UBS 版聖書本文の促進者である『聖書協会世界連盟』(UBS United Bible Societies) は、各国の聖書協会を統轄するエキュメニカル (全教会を統一させようとする運動の) 団体です。

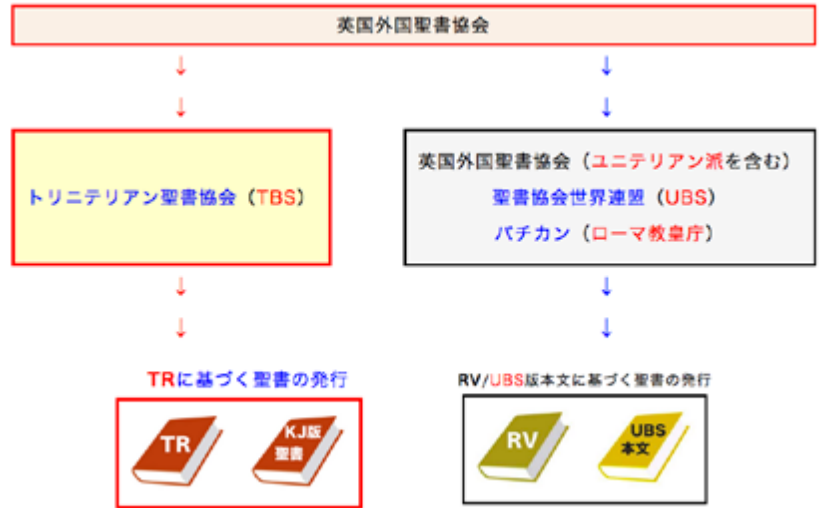
聖書協会世界連盟のメンバーである『英国外国聖書協会』(British and Foreign Bible Society) は、英語聖書を最初に出版し頒布した聖書協会でした。

ところが、1831 年には、この聖書協会はユニテリアン派の信者と公言する人々を重要な地位に就けていました。ユニテリアン派の信者は、イエス・キリストが神であることを信じていません。

この聖書協会にユニテリアン派の信者たちが関わりを深めつつあることを懸念するようになったメンバーたちは、それから分離して、『トリニテリアン聖書協会』(TBS Trinitarian Bible Society) を設立しました。

トリニテリアン聖書協会 (TBS) は今日に至るまでテキスト・レセプトゥス (TR) を発行し続けていますが、『英国外国聖書協会』および『聖書協会世界連盟』(UBS) は、19 世紀後半にテキスト・レセプトゥス (TR) を破棄しました。

聖書協会世界連盟 (UBS) は、バチカン (ローマ教皇庁) という後ろ盾を持っています。



● カトリックと聖書協会世界連盟 (UBS) の協定

『ネストレ-アールント版聖書本文』第 27 版 (2006 年) の序文は、UBS とバチカンとの間のこの親密な関係をはっきりと確認しています。

「この二つの聖書本文によって共用された本文は、世界各国の聖書協会によって採用された。

そして、バチカン (ローマ教皇庁) と聖書協会世界連盟 (UBS) との間での協定に従って、この本文は、彼らの監督の下で作成される新たな翻訳聖書および改訂版の土台として用いられている。このことは、異なる宗派間での関係に関して、意義深い一歩である」

『ネストレ-アールント版聖書本文』第 27 版 (2006 年発行) ,p.45

2013 年にフランシスコがローマ教皇として選出された時、聖書協会世界連盟 (United Bible Societies) は諸手を広げてこの新たな教皇を称賛し、UBS とバチカン (ローマ教皇庁) との間の親密な協力関係を確認しました。

UBS の書記局長であるマイケル・ペレウはこう述べました。

「聖書協会の長年の友人であるフランシスコ教皇は、我々のクリスチャン信仰の具現化に共同するべく呼びかけることこそが我々の存在理由であることをご存知です。…」(Webpage 参照: "United Bible Societies welcomes Pope Francis")



ネストレ-アールント版 / UBS 本文が広く受け入れられている理由は、それが、大きくて影響力のあるローマ・カトリック教会の規範となっている本文だからです。

テキスト・レセプトゥス (TR) に関わった人々が聖書を信じている人々であったのに対し、ネストレ-アールント版 / UBS 本文に関わった人々がリベラル (自由主義神学) 派の人々であったことは、否定できないことです。聖書を信じる人と、神学的にリベラル派の人は、非常に異なる見解と考え方をもって聖書の本文に取り組んでいるのです。

《出典: "Aren't newer translations based on a better Greek text?" KJV Today (www.kjvtoday.com)》

《ローマ・カトリックの監督下となった現代版聖書》【聖書の歴史 E-4】

ケン・マット博士 "Your Modern Version is Roman Catholic" [あなたの現代版聖書はローマ・カトリック版です] より)

● 1881年の聖書本文 RV が元となった多くの現代版聖書

1959年にはNASV(ニュー・アメリカン・スタンダード版聖書)が発行され、1973年にNIV(ニュー・インターナショナル版聖書)、1979年にはNKJV(ニュー・キング・ジェームズ版聖書)(注1)、1989年にはNRSV(ニュー・リバイズド・スタンダード版聖書)、2001年にはESV(イングリッシュ・スタンダード版聖書)、2003年にはHCSV(ホルマン・クリスチャン・スタンダード版聖書)が、それぞれ発行されました。これらの聖書が次々と発行される元となったのは、1881年の聖書本文RV(Revised Version)でした。



● ローマ・カトリックに由来する現代版聖書

その**ウェストコットとホートの本文RV**を支持する二つの主要な写本は、いずれも四世紀の写本であり、それらは福音書だけでも三千箇所がTRと異なっていました。それは**パチカン写本とシナイ写本**でした。

パチカン写本は1475年にパチカン図書館で発見され、キング・ジェームズ版聖書の翻訳者たちに与えられましたが、彼らはそれを退けました。なぜなら、それは、**途方もなく改ざんされていた**からです。

現代版聖書の土台となっている二つ目の写本は、**シナイ写本**です。それは、1844年にコンスタンティン・ティッシェンドルフにより聖カタリナ修道院で発見されました。それがまさに焼却されようとしていた時、彼はそれを持ち帰り、1859年にそれを公にしました。それは、ダーウィンが『種の起源』を出版したのと同じ年でした。

これらの写本は、キング・ジェームズ版聖書に対する二つの主要な攻撃材料として使われました。

ローマ・カトリック教会が手にしたこの二つの写本は、ウェストコットとホートによりRVを創り出すために使われ、その本文がすべての現代版聖書の**土台**となりました。

● ネストレ聖書本文の誕生 (1898年)

1898年、エバハルト・**ネストレ**という人物が『ギリシャ語新約聖書』の第一版を創りました。それは、ティッシェンドルフの写本と、ホートおよびウェストコットの本文RVと、ウェイマウスの本文から成り立っていました。

(1901年、彼はウェイマウスの本文を、1894年のベルンハルト・ヴァイスの本文で置き換えました)

● ローマ・カトリックの監督下となった現代版聖書

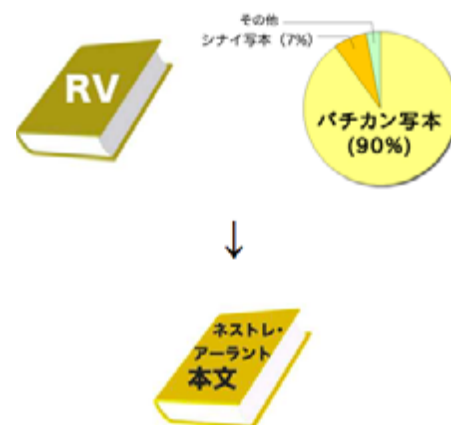
さて、ここで、『**ネストレ-アーラント**によるギリシャ語聖書本文』の第27版から引用したいと思います。それは、**現代版の数々の聖書がローマ・カトリックに由来するものであること**について、否定できない証拠を示しています。

現代版のどの聖書にもプロテスタントの翻訳者たちが存在するかもしれませんが、彼らは、**パチカン(ローマ教皇庁)**の支配下にある**監督権**に対しては、**補助的(付随的)**なのです。

以下の引用箇所は、『**ネストレ-アーラント**版聖書本文』第27版(2006年)の45ページで確認することができます。

私がこの引用をする前に、知っておくべき重要なことがあります。それは、『**ネストレ-アーラント**によるギリシャ語聖書本文』第27版、および、『**UBS**版聖書本文』第4版の両方に関わった編集者の一人が、**カルロ・マルティニ**という名前の、**イエズス会の枢機卿**であったことです。

このことは、彼らが**ローマ・カトリックのあの二つの写本**を使っただけでなく、**ローマ・カトリックの枢機卿が編集者**として関わったことも意味します。



「1955年、**K. アーラント**は、**M. ブラック**、**B.M. メッツガー**、**A. ウィグレン**、および**C.M. マルティニ**とともに『ギリシャ語新約聖書』を作成するための編集委員会に参加するよう招かれた。それは、数々の選択された箇所に関する研究資料付きのギリシャ語本文であり、世界の聖書翻訳者たちが利用するために意図されたものである(第一版:1966年、第二版:1968年)。

『**ネストレ-アーラント**版聖書本文』および『**UBS**版聖書本文』の二つの版の作業は、しばらくの期間、平行して行われた。その結果、『**ネストレ-アーラント**版聖書本文』第26版(1979年)と、『**UBS**版聖書本文』第3版(1975年)は、**土台となる同じ本文を共用**した。

この二つの聖書本文によって共用された本文は、世界各国の聖書協会によって採用された。

そして、**パチカン(ローマ教皇庁)**と**聖書協会世界連盟(UBS)**との間での**協定**(注2)に従って、この本文は、彼らの**監督の下**で作成される新たな翻訳聖書および改訂版の**土台**として用いられている。

このことは、異なる宗派間での関係に関して、意義深い一歩である」

『**ネストレ-アーラント**版聖書本文』第27版(2006年),p.45

下線箇所を見れば、彼らが何も隠していないことがはっきりわかるはずです。

現代版の数々の聖書の背後のギリシャ語本文は、**パチカン(ローマ教皇庁)**の監督下にあるのです。

現代版の聖書がこれらのギリシャ語本文を使っており、このことは、**聖書に何を含め、何を削除するかがローマ・カトリック教会によって決められている**ということを意味します。

それで、現代版の聖書は**パチカンにとって非常に都合なもの**となっており、**ローマ・カトリックの数々の聖書と合致**しているのです。

(注1) NKJV(ニュー・キング・ジェームズ版聖書)はKJV(キング・ジェームズ版聖書)の改訂版ではありません。

(注2) **パチカン(ローマ教皇庁)**が**UBS: 聖書協会世界連盟**とともに発行した、聖書翻訳における異なる宗派間の協同のためのガイドラインは、1968年に発行され、1987年にその改訂版が発行されました。

「1968年、**UBS: 聖書協会世界連盟**と**パチカン(ローマ教皇庁)**は、異なる宗派間での聖書翻訳プロジェクトに取り組む**合同協定**を結んだ。…」(David W.Daniels,"Did The Catholic Church Give Us The Bible?",p.148)

《プロテスタントの聖書とカトリックの聖書》【聖書の歴史 E-5】

ウィル・キニー ("Undeniable Proof the ESV, NIV, NASB, Holman Standard, NET etc. are the new "Vatican Versions" より抜粋)

★ プロテスタントのギリシャ語本文とカトリックのギリシャ語本文

私の手元に、『ネストレ-アールント版聖書本文』第 27 版 (2006 年発行) があります。

それは、『UBS 版聖書本文』(聖書協会世界連盟 United Bible Societies) 第 4 版と同じ本文です。

これらは、ESV, NIV, NASB, HCSV 聖書、および、新たなカトリックの聖書(聖ヨセフ・ニュー・アメリカン・バイブル:1970 年発行。ニュー・エルサレム・バイブル:1985 年発行)などの現代版聖書が土台としている「読み方」および本文です。もしあなたの手元に、『ネストレ-アールント版聖書本文』第 27 版があれば、その序論の 45 ページで彼ら自身が述べていることを読んでください。次のように書かれています。

「この二つの聖書本文によって共用された本文は、世界各国の聖書協会によって採用された。

そして、バチカン(ローマ教皇庁)と聖書協会世界連盟(UBS)との間での協定に従って、この本文は、彼らの監督の下で作成される新たな翻訳聖書および改訂版の土台として用いられている。このことは、異なる宗派間での関係に関して、意義深い一歩である」『ネストレ-アールント版聖書本文』第 27 版(2006 年), p.45

★ プロテスタントの聖書とネストレ-アールント版/UBS 版聖書本文

■ ESV 聖書:2001 年版の ESV 聖書の序文に、こう記されています。

「ESV 聖書は、1993 年版の『ギリシャ語新約聖書(第四版)』(UBS 発行)、および、『ギリシャ語新約聖書(第 27 版)』(ネストレとアールントによる編集)に基づいている」

■ NIV 聖書:2011 年版の NIV 聖書の序文に、こう記されています。「新約聖書の翻訳に使われたギリシャ語本文は、取捨選択的な本文であり、『ネストレ-アールント版/UBS 版のギリシャ語聖書』の最新版に基づいている」

■ NASB 聖書:1995 年版の NASB 聖書の序文に、こう記されています。

「ギリシャ語本文:おおむね、ネストレの『ギリシャ語新約聖書』の第 26 版に従った」

■ HCSV 聖書:2003 年版の序文に、こう記されています。「土台となっている本文は、『ネストレ-アールントによるギリシャ語聖書(第 27 版)』、および、『UBS 版新約聖書(第 4 版)』である」

★カトリックの聖書とネストレ-アールント版/UBS 版本文

■ カトリックの聖ヨセフ・ニュー・アメリカン・バイブル:1970 年版の聖書の序文にこう記されています。

「新約聖書の本文…おおむね、『ネストレ-アールントによるギリシャ語新約聖書』(第 25 版、1963 年)に従った。補助的に、『ギリシャ語新約聖書』(編集者:アールント、ブラック、メッツガー、ウィグレン)が使われた。これは、1966 年に聖書協会世界連盟(UBS)により翻訳者たちの使用のために作られたものである」

さらに、その冒頭にこう書かれています。

「この翻訳者たちは…第二バチカン会議の勅令を遂行した。それは、こう規定している。

『最新版の適切な翻訳聖書を、さまざまな言語で作ること。…それらの翻訳聖書が、分け離された我々の兄弟たち(カトリック以外の人々)との共働によって作られるようにし、そうして、すべてのクリスチャンがそれを使うことができるようにすること』」

★ ネストレ-アールント版/UBS 版聖書本文に関わっているローマ・カトリック

UBS 版聖書本文の五人の編集者の内の一人は、イエズス会の枢機卿である C. マルティニでした。

彼は、すべての人間の内に、また、すべての宗教の内に神がおられると信じていました。マルティニは、UBS 聖書本文の第二版、第三版、第四版の編集委員を務めました。ESV, NIV, NASB, NET の聖書も、現代のカトリックの聖書も、これらは現代のほとんどのクリスチャンが使っている聖書です。

1987 年、ローマ・カトリック教会と UBS: 聖書協会世界連盟との間で公式な協定が結ばれました。その協定は、そのギリシャ語聖書本文を、カトリックおよびプロテスタントの今後のすべての翻訳聖書で用いるというものでした。

